

卒業研究

谷田貝ゼミ

映像メディアが子どもに与える
影響

18-539 松浦 果奈

18-540 水鳥 友莉

目次

はじめに・・・p, 3

第1章 アンケート調査・・・p, 4

- 《1.1》 一日のテレビ、ビデオ、DVDの視聴時間・・・p, 4
- 《1.2》 ビデオ、DVDの種類・・・p, 5
- 《1.3》 子どもへのテレビの見せ方・・・p, 6
- 《1.4》 子どもに見せるビデオ、DVDの基準・・・p, 7
- 《1.5》 子どもにビデオ、DVDを見せることによる効果、期待・・・p, 8
- 《1.6》 テレビをつけている時の活動・・・p, 10
- 《1.7》 乳幼児のメディア視聴と実態・・・p, 11
- 《1.8》 幼児の生活アンケート・・・p, 12

第2章 メディアの影響と対応策・・・p, 14

- 《2.1》 メディアの良い影響・・・p, 14
- 《2.2》 メディアの悪い影響・・・p, 15
- 《2.3》 対応策・・・p, 16
- 《2.4》 テレビ番組を選ぶときの注意点・・・p, 17

第3章 まとめ・・・p, 18

参考文献・・・p, 19

はじめに

近年、メディアによる情報の普及率が高まっている。街には情報があふれ、いつでもどこでも簡単に情報が手に入る時代になっている。また、情報は他方に氾濫し、正しい情報の中にも偽りの情報が多く入り乱れている。

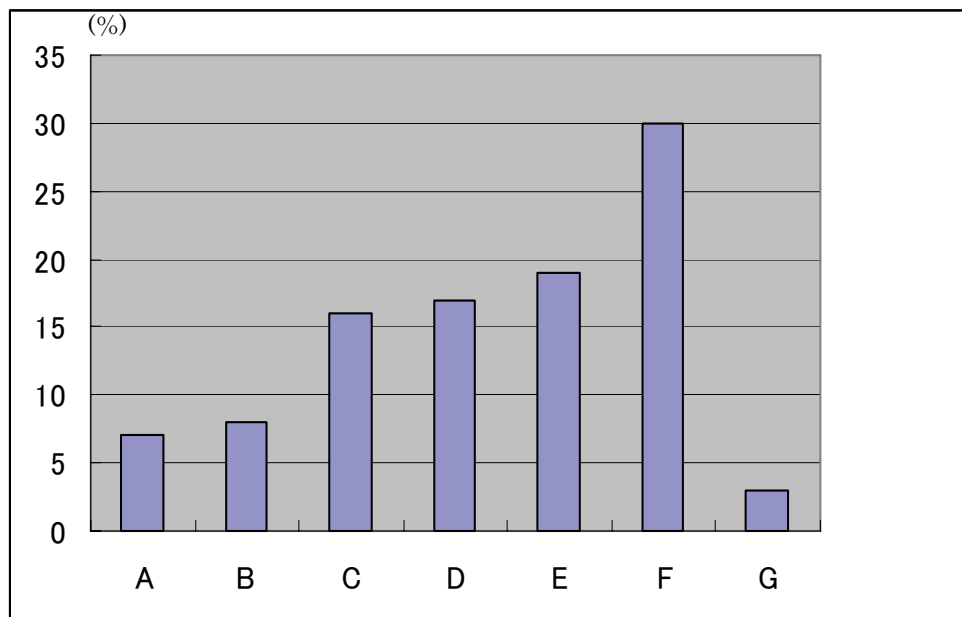
メディアにはテレビを始めとし、ラジオや携帯電話などさまざまなものが存在し、携帯電話でもテレビが見られるまでになっている。パソコンも各家庭に一台置かれている状況といっても過言ではない。パソコンは今では簡単に手に入れることができ、私たちはパソコンなしでは生きていけない状況になっている。テレビについては子どもが一人でも見られる環境があり、つねにテレビを接しながら生活をしている。携帯電話においても子どもが一人一台持つ時代になり、各紙メディアの普及率は年々高まっている。それとともに、メディアが子どもに与える影響も多くなってきており。子どもはテレビから言葉遣いや、目などの身体への影響、日常生活などいろいろな影響を受けている。また、発達上問題とされる暴力的なシーンや常識から逸脱している番組も放送されている。このような情報化社会で子どもたちはどのようにメディアに触れているのか、どのような情報を取り入れているのか疑問に考えた。そこで、私たちはメディアが子どもに与えるさまざまな影響について調べ、「ベネッセ次世代育成研究所」のアンケートによる調査や九州医療センター、小児科医長の佐藤和夫氏によるメディアの与える影響を元に研究し、その結果を載せた。情報が多くなってきている現代において子どもたちのメディアへの接し方をいろいろな方向から研究した。幼児だけでなく、乳幼児を持つ親も対象とし、年齢の幅広く、子どもとメディアの実態について調べた。アンケートの結果を元にメディアが与える良い影響と悪い影響について考察し、特にテレビに接する際の対応策を述べた。また、保護者の面からも考察し、アンケートから分かったことを記述した。

第1章 アンケート調査

【メディアというテーマのアンケート調査の結果】

乳幼児を持つ親 100 人を対象とし、2005 年 4 月 27 日～2005 年 5 月 31 日にベネッセ次世代育成研究所が実施した。

《1. 1》 一日のテレビ、ビデオ、DVDの視聴時間



A・・・全く見せていない、B・・・10分以上～30分以下、C・・・30分以上～1時間以下、D・・・1時間以上～1時間30分以下、E・・・1時間30分以上～2時間以下、F・・・2時間以上、G・・・まだ子どもはいない

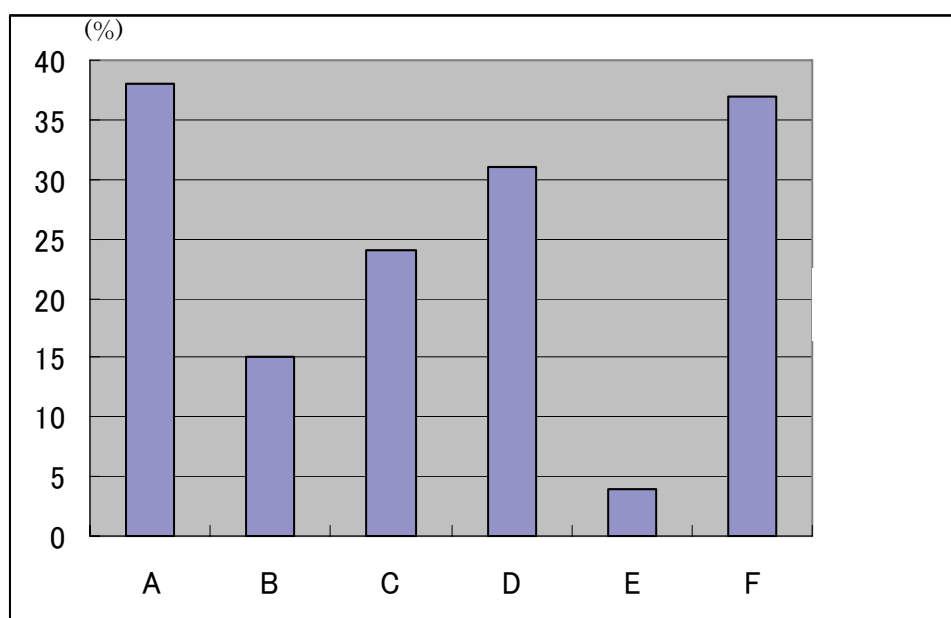
図. 1 1日にどれくらいTV・ビデオ・DVDを見せていますか？

(出典ベネッセ次世代育成研究所より)

2時間以上が約30%と一番多い数字を示した。1時間以上テレビを見ている家庭が多く、現代の生活がどれだけメディアに頼っているかが見てとれる。子どもがいかにテレビ漬けの生活の中にいるのかということがわかった。少ない時間になると数字は減っていき、やはり子どもたちは長時間テレビ視聴を行っている。また、全く見せていないが7%であった。これだけテレビが普及している中でテレビを全く見せていない家庭もあった。「全く見せていない」と「10分以上～30分以下」では時間が大きく変わるはずだが、わずか1%しか変わらなかった。「10分以上～30分以下」と「30分～1時間以上」では、前者が8%、後者が16%と倍の数字を示した。これは、テレビを見ている家庭、時々テレビを見ている家庭全く見えていない家庭に分けられる境界といえる。「1時間以上～1時間30分

以下」と「1時間30分以上～2時間以下」では、3%しか変わらず、この時間は一般の家庭がテレビを見ている平均時間である。一般の家庭には平均「1時間以上～2時間以下」の時間がテレビを見ている時間だといえる。このアンケートは映像メディアの使用状況を映し出している。映像メディアがこんなにも各家庭に浸透しているとは知らず、またテレビが各家庭に浸透しているということが改めて分かった。乳幼児の頃は発達の関係もあり、テレビなどのメディアはあまり見せないほうがよいとされている。しかし、今の保護者たちはお構いなしに子どもにテレビを見せている。言い換えると、子どもが勝手にテレビを見られる時代になったといえる。メディアと現代社会は切っても切れない時代になっている。このような時代の中で私たちはメディアと上手に付き合っていかなければならない。

《1. 2》ビデオ、DVDの種類



A・・・アンパンマン、ドラえもんなどテレビで放映しているシリーズ、B・・・ジブリシリーズ、C・・・ディズニーシリーズ、D・・・知育、E・・・子どもはまだいない、F・・・その他

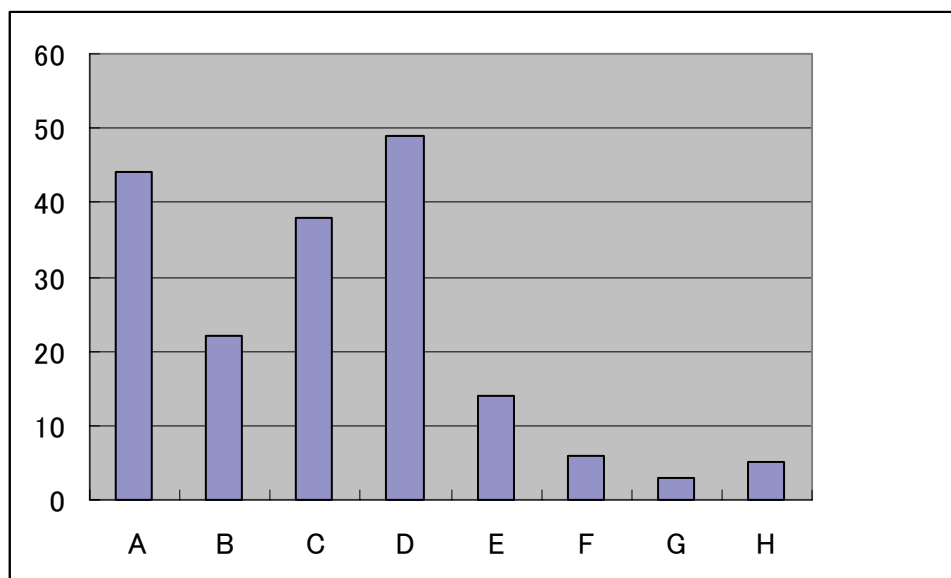
図. 2 どのようなビデオ・DVDを見せていますか？

(出典ベネッセ次世代育成研究所より)

保護者が子どもに見せているビデオやDVDはテレビで放送されているものが38%と最も多かった。その他も37%と次いで多い数字であった。NHKなどの教育番組は子どもの発達に悪い影響を及ぼす情報がない。ディズニーシリーズも3番目に多く、人気が見て取れる。ディズニーシリーズは子どもが好きであり、沢山のシリーズがある。子どもの分かりやすいストーリーでもあるので、子どもには理解しやすい。しかし、テレビで放映

されているお馴染みのビデオやDVDを見せている数字が一番高かったのは、やはりテレビを毎日見ているということである。テレビで見ているからこそビデオやDVDで見たいという子どもの欲求が表れる。テレビで見ているものは子どもにとって親しみが持てるし、一番好きなテレビなら何回も見たいであろう。保護者も、いつも見ているテレビ番組なら安心して見せることができると考えられる。子どもの教育に良くないシーンが出るテレビ番組は保護者が子どもの発達上不安に感じてしまう。よって、日ごろから内容を知っているテレビ番組を子どもに見せる傾向がある。アンパンマンが一番高いことから日ごろから内容を知っている番組を見せていると読み取れる。知育番組はNHKなどの教育目的の番組である。NHKは手話を行ったり、音楽を放送したりと教育に関することを行っている。そのようなビデオやDVDを見ている家庭が多いことは子どもの発達を考えている家庭といえる。また、早期教育として知育番組のビデオを見せている家庭も多い。しかし、こちらは、子どもが好んで見るものではなく、幼稚園に入る前に家庭教育の一部として利用されているにすぎない。本当に子どもが見たいビデオやDVDを見せているのかという例外を除いては断言できない。例外とは、子どもが本当に勉強が好きで自分から好んで知育番組のようなビデオを見るときである。子どもにビデオを見せるにあたり、以上のような背景が考えられる。

《1. 3》子どもへのテレビの見せ方



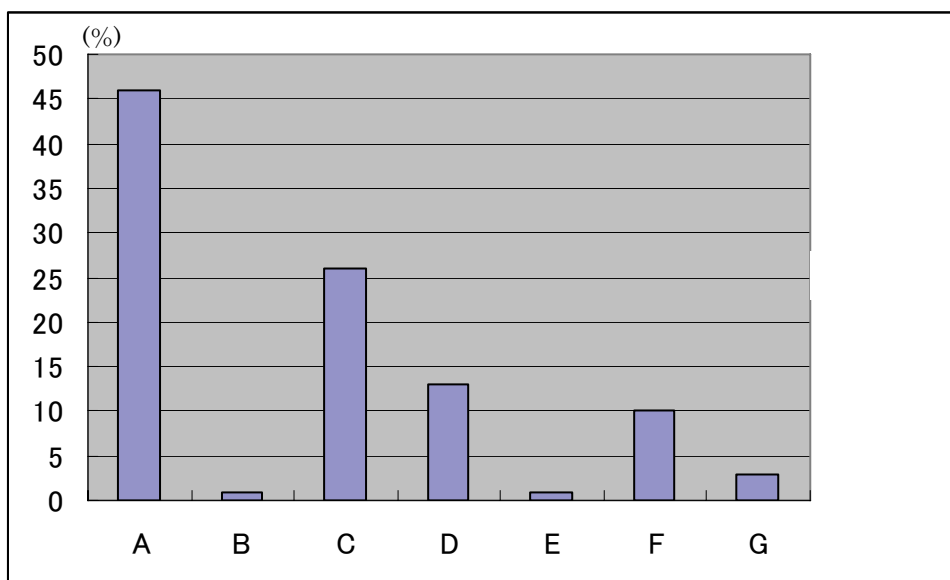
A・・・親子一緒に見る、B・・・毎日決まった番組を見る、C・・・子どもが見たがった時に見せる、D・・・家事などをしている時に見せる、E・・・ぐずった時に見せる、F・・・見せない、G・・・子どもはまだいない、H・・・その他

図. 3 どのような見せ方をしていますか？

(出典ベネッセ次世代育成研究所より)

この結果から、最も多かったのが「家事をしている時に見せる」で約49%とテレビに子守をさせている親であった。テレビに子守をさせるという親の見せ方はメディアに頼りすぎている。ここで一番いいことは、親子で一緒に見るということだ。本来ならば親子で一緒に見るのが一番いいのだが、現実には家事をしている時に見せるとなっておりメディアなしではいられなくなっているのが事実だ。メディアは子育ての手伝いをもしてしまうのである。子どもが簡単にテレビを見ることができてしまうこの現代は、帰ってきたらまずテレビをつけるというスタイルが一般化してしまっている。家事に夢中で子どものことも顧みない保護者はみっともないと考える。ある程度年齢のいつている青年ならまだしも、保護者が目を離したすきに何をするかわからない乳幼児のグラフでこの結果ということは、保護者の責任感のなさや、メディアに頼りきりな保護者が多いということである。メディアは所詮、機械である。そのメディアを動かすのが私達人間なのに、今の状況ではメディアに人間が動かされているといってもいい。人間は便利にするためにメディアを作りだした。それが、今では人間のほうがお世話されているといっても過言ではない。「毎日決まった番組を見る」という回答はとても発達の面からもよいとされるのに、22%と意外な数字であった。「子どもが見たがったときに見せる」では子どもはそれでいいのかもしれないが保護者の威厳が全く無い。子どもに合わせている保護者は、決定権がなくなり、言えばいいというわがままな子どもに育ちかねない。

《1. 4》子どもに見せるビデオ、DVDの基準



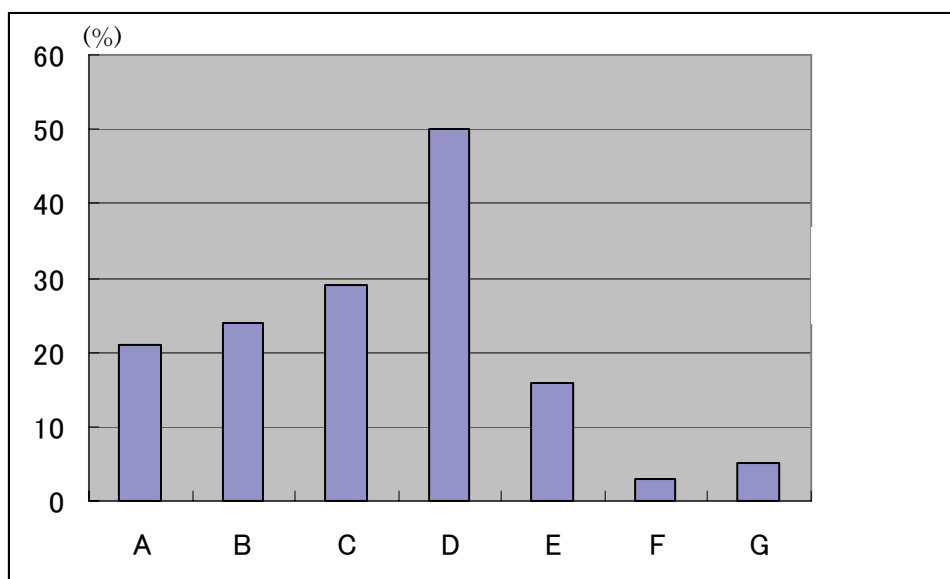
A・・・子どもが好きなキャラクターのもの、B・・・話題のタイトルである、C・・・教育的要素が入っている、D・・・親も楽しめる内容である、E・・・値段が安い、F・・・まだ見せない、G・・・子どもはまだいない

図, 4 お子さんに見せるビデオ・DVDはどんな基準で選びますか？

(出典ベネッセ次世代育成研究所より)

やはり保護者は子どもに合わせてしまうことがわかった。好きなキャラクターものもは良いが、そればかりではなく、たまにはビデオや違うテレビを見せるなどして、メリハリをつけた方が良い。なぜかという、好きなキャラクターばかりに偏っていると情報が欠如し、好きなキャラクターだけの概念になってしまいがちだからである。キャラクターといっても色々なものがあるので、一概にいえないけれど良いキャラクターもいれば悪いキャラクターもいる。例えばの話だが、良いキャラクターばかりを好きになってしまったら情報が一つに偏り、悪い方は悪いままになってしまう。子どもが好きなキャラクターの基準で選ぶことは子どもも喜ぶし、とても良いことだが、このようなことにも目を向けるべきだ。今の子どもたちはそのような悪い情報には目をつぶろうとしている。そのような意味でも基準で選ぶということはとても難しいことなのである。保護者は子どもが見るものはキャラクターであれば大丈夫と考えるが、そのキャラクターの基準も子どもに良い影響を与えるキャラクターもいれば、そうでないキャラクターもいる。保護者はこのことも考えながら基準を選ぶべきだ。保護者も楽しめる内容が13%と親子でビデオを見ている家庭も多い。子どもと一緒に見るのなら保護者の楽しめるもので、なおかつ子どものことを考えなければならない。ビデオを見せる基準というものを正しく理解し、子どもによりよいビデオを見せていくことが私たちの役目だと考える。子どもは良いキャラクターと悪いキャラクターを区別し、ビデオを見ていくべきである。そのためにも、保護者は子どもに片方の良い意見でなく、悪い意見も取り入れていくようにしていかなければならない。親の基準はやはり子どものキャラクターのよしあしで決まるということがわかった。

《1. 5》子どもにビデオ、DVDを見せることによる効果、期待



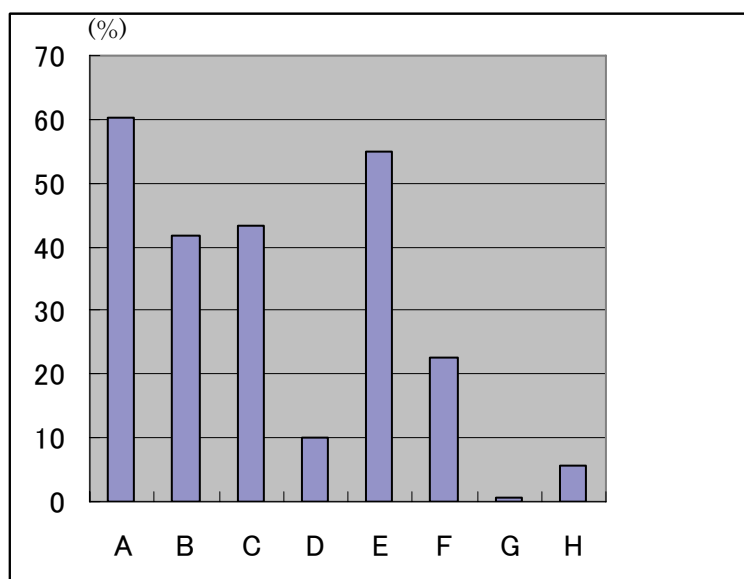
A・・・しつけ、B・・・英会話など学習的効果、C・・・情操効果、D・・・楽しめるストーリー、E・・・特に無い、F・・・子どもはまだいない、G・・・その他

図. 5 ビデオ・DVDを子どもに見せることによる効果、または期待は何ですか？

(出典ベネッセ次世代育成研究所より)

この結果から、保護者はビデオ・DVDを子どもに見せることにより、楽しめるストーリーが 50%と半数の保護者が期待を持っていたことがわかった。これは効果ではなく、ビデオに楽しめるストーリーを期待しているということだ。また、子どもに英会話のビデオを見せている親も 24%と意外に多かった。ビデオやDVDを見せることで、英語が話せるわけではない。ただ見ているだけにすぎないのである。保護者は、英会話などのビデオを子どもに見せることにより安心感を抱くが、英会話のビデオが子どもの教育になっているとはいえない。楽しみながら学習することは良いことだが、ビデオを見ても学習できるとは限らないと考える。学習効果ならビデオでなくても、英単語の書いたカードを見せて、英語に慣れさせるなど、方法は他にもたくさんある。わざわざ、ビデオやDVDを選ぶということはやはりメディアが私たちの生活に入ってきているという証拠だ。子どもに英語を覚えさせて何の役に立つというのだろうか。早期教育は保護者が子どもに行わせるものだと私は考える。子どもは望んで学習しようとはしていない。保護者同士で、周りがやるから負けてはいけないと思い、保護者たちが熱心に子どもにやらせているに違いない。メディアを通しての学習方法もあるがそれ以前に子どもが望むことを保護者はするべきだと考える。しつけという回答も 21%と決して少ない数字ではなかった。しかし、いくらビデオでしつけをするといってもそのビデオが著しくしつけから離れたものであったらビデオを見せることによるしつけの効果ではなくなってしまう。ビデオの選び方ひとつでも今の時代では重要なのだ。それほどビデオやテレビには暴力シーンなどの危険なものも潜んでいるということになる。保護者はテレビやビデオのことをもっと知った上で、見せても良い番組を見せたり、番組を選んで子どもに見せたりしていかなければならないと考える。

《1. 6》テレビをつけている時の活動



A・・・食事の準備をしている時、B・・・食事中、C・・・家事をしている時、D・・・パソコンをしている時、E・・・だんらん時、F・・・就寝前、G・・・テレビは見ない、H・・・その他

図. 6 何をしている時にテレビをつけていますか？

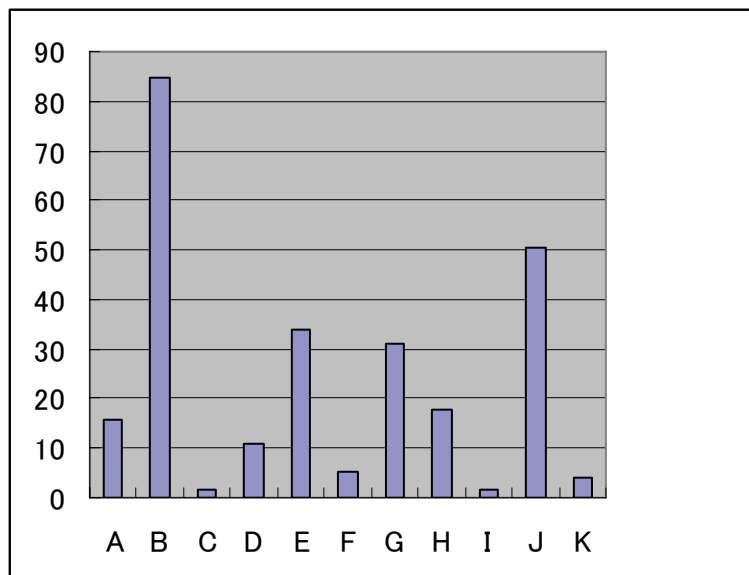
(出典ベネッセ次世代育成研究所より)

この結果を見ると、「食事の準備をしている時」が一番多く、これは、母親が準備をしていて忙しいときにテレビが子守の代わりにしていることになる。手が離せないときにテレビを見せておけば大人しく見ているので安心できると考えられる。本来ならテレビを子守の代わりに使うのではなく、親子のコミュニケーションを図るために使うようにすべきである。おもちゃで遊ばせるなど親子で一緒に遊ぶことも大切だ。「食事をしている時」にはテレビに集中して食事をする時間が長くなってしまわないように、食事に集中させ、家族との会話を大切にするべきだ。「だんらんの時」もテレビばかりに集中することのないようテレビをつけている時間を短くするべきだ。だんらんとは名ばかりのものになっていることのないように親子・家族のコミュニケーションを積極的にとる時間にするべきである。一緒にテレビを見ている時も、内容について話をしたり、コミュニケーションをとったりするべきである。「家事をしている時」は子どもと会話をしながら子どもが近くにいるようにするべきである。「就寝前」は心を落ち着かせるため、目を休ませるために何分も前からテレビを消し、静かな空間を作るようにすべきである。就寝直前までテレビを見ているとテレビの明るさに目が慣れてしまい、興奮状態になってしまい眠れなくなってしまうのである。そうならないようにするために保護者がテレビを見る時間をしっかりと管理する必要がある。これらにより、手が離せない時や就寝前に子どもにテレビを見せてい

るのは、静かにして欲しいという保護者の思いがあると考えられる。保護者の都合だけで子どもにテレビを見せるのは子どもの意志とは関係ないことである。

《1. 7》乳幼児のメディア視聴と実態

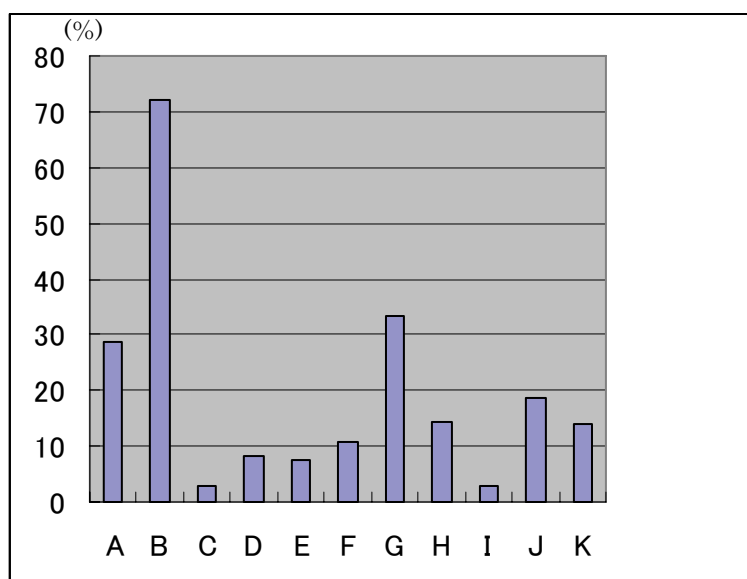
図, 7 2歳代の視聴の目的



A・・・一人だけにするとき安全のため、B・・・家事などで手が離せない時の子守のため、C・・・驚かせるため、D・・・目覚めを良くするため、E・・・泣いてぐずるとき、機能を良くするため、F・・・じっとさせるため、G・・・言葉や知識を豊富にするため、H・・・生活習慣を学ばせるため、I・・・集中力をつけるため、J・・・歌と踊りをさせるため、K・・・その他

(出典ベネッセ次世代育成研究所より)

図, 8 6歳代の視聴の目的



A・・・一人だけにするとき安全のため、B・・・家事などで手が離せない時の子守のため、C・・・驚かせるため、D・・・目覚めを良くするため、E・・・泣いてぐずるとき、機能を良くするため、F・・・じっとさせるため、G・・・言葉や知識を豊富にするため、H・・・生活習慣を学ばせるため、I・・・集中力をつけるため、J・・・歌と踊りをさせるため、K・・・その他

(出典ベネッセ次世代育成研究所より)

2歳児と6歳児の視聴の目的についての表である。どちらも一番多いのは「家事などで手が離せない時の子守のため」という回答であった。何歳になっても保護者の思いは同じなのだということがわかった。保護者は何歳になっても家事などをしているときは子どもに大人しくしてほしいと考えている。テレビの方が子どもが集中して長い時間大人しくしていることができるからテレビを見させておくことが多いと考えられる。家事などで手が離せないことを理由にテレビを見させるのではなく、子どもの発達のためにお母さんといっしょなどを見せるようにすることが必要だ。保護者は家事をスムーズに終わらせるために、子どもにテレビを見せることが最も多い目的である。2歳代でその次に多いのは「歌と踊りをさせるため」という回答で50%を超えていた。子どもに踊りを習わせたいという保護者の考えが伺える。

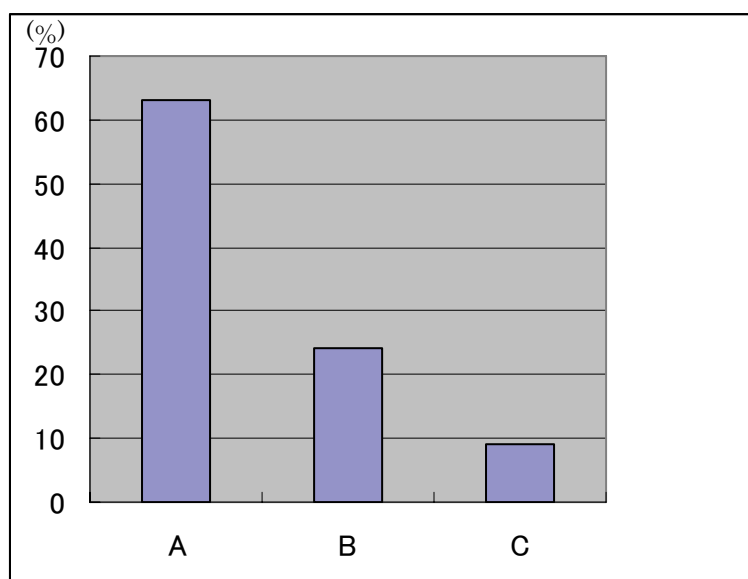
6歳代でその次に多いのは「言葉や知識を豊富にするため」という回答が33%であった。言葉や知識をテレビで増やすよりも保護者や周りの大人が言葉や知識を教えてあげるべきである。

《1. 8》幼児の生活アンケート

幼児の生活ではどのくらいメディアと関わっているのか。テレビやビデオ、DVDを誰と一緒に見ているのか。

参考文献（ベネッセ次世代育成研究所）を見て、子どもがテレビやビデオを見るときに母親と一緒に見る家庭が多く、きょうだいで見ると、ひとりで見るものが少なくなってきているのである。また、テレビとビデオとでも一緒に見る人の違いがあることがわかった。母親と一緒に見るのはテレビのほうが高く、ひとりで見るのはビデオのほうが高いのである。テレビとビデオ、どちらも一緒に見るのは母親、兄弟、ひとりという順番の割合である。

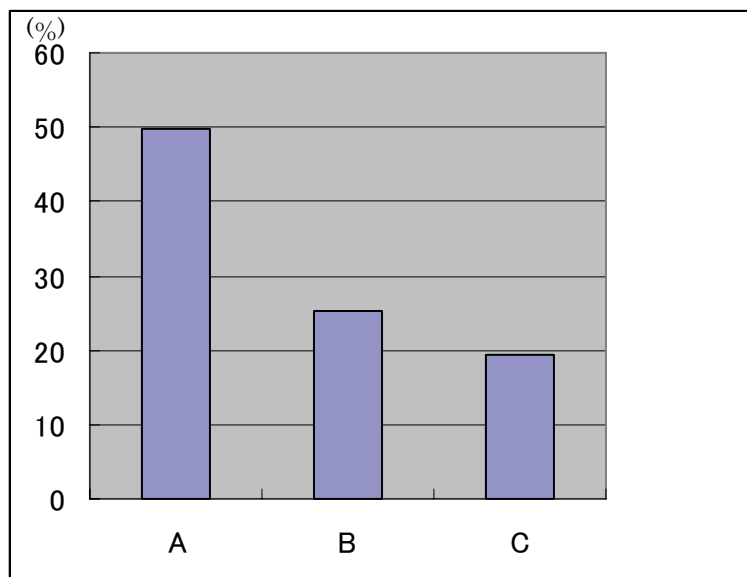
図. 9 テレビを誰と一緒に見ているか。



A・・・母親、B・・・兄弟、C・・・一人

(出典ベネッセ次世代育成研究所より)

図. 10 ビデオを誰と一緒に見ているか。



A・・・母親、B・・・兄弟、C・・・一人

(出典ベネッセ次世代育成研究所より)

このような結果から、テレビ・ビデオ・DVDともに母親と一緒に見るのが一番多いということがわかった。やはり、いつも一緒にいるのが母親であるから考えられる。ひとりで見

ることが少ないのは母親と一緒に見ているからである。母親と見ながら一緒に会話を楽しむことがテレビを見る上で一番効果的だと考える。会話を楽しむことでより楽しさを感じることができ、親子のコミュニケーションもとることができるからである。会話を楽しみながら見ることで母親と一緒に共感すること、隣に座って見ることでスキンシップをとることができ、親子の仲が深まる。ちょっとした会話で子どものことを知ることができ、子どもを理解することができるのである。そして、共通の趣味を持つことができる。母親などと一緒に見ることでテレビを見すぎるのがなく、テレビを見る時は離れてみるなどのルールを母親から教えられ、知ることができるのである。テレビを誰と見るのかによっても子どもに与える影響は違うと考える。ひとりで見ていると人間関係の大切さを学ぶことができない、会話をしながら楽しんで見ることができない、家族の中でみんなでいる安心感や居心地の良さを見つけることができないのである。

第2章 メディアの良い影響・悪い影響

アンケートの結果を元に、メディアの良い影響・悪い影響について述べる。

《2. 1》メディアの良い影響

子ども達はつねにテレビと接して生活をしている。テレビを通してさまざまな思いを感じ、子どものよい発達を習得するということである。一見テレビと発達はよくないとされそうだが、ベネッセ次世代育成研究所では、「親子の会話を交えながら見ることで作品の世界を豊かにしていくことができ、子どもの発達に良い影響を与える効果がある。」と述べている。テレビをただ見るだけではなく、親子のコミュニケーションが子どもの情緒的発達に大きな影響を与えていると考える。子どもの発達は流れに沿って起こるものであるとされている。親子の会話を交え、作品の世界を豊かにすれば、子どもの感性は良い発達をする。感性が良い発達をすると、子どもの表現力も豊かになる。

また、コミュニケーションを通して親子の信頼関係を築いていると考える。今の時代その信頼関係を築く一つとして、メディアが活用されている。メディア、主にテレビだが、テレビを通して親子の会話が増えていると考える。ベネッセ次世代育成研究所では、「動物や昆虫、人体や植物、宇宙や地球など、自然や科学に関する知識や興味を広げることができる。」と述べており、動物や昆虫などを見ることによって、自然の世界が分かり、分からないことを親に尋ねるなどして親子の会話が増えていくと考える。親子の会話は、子どもにとってとても安心感を与えるだけでなく、テレビを通してさまざまな会話をするにより信頼関係を築くことができると考える。

また、子どもの想像力を豊かにすると考える。ベネッセ次世代育成研究所では、「絵本と同じように、お話の世界を楽しめ、子どもの想像の世界を豊かにすることに役立つのであ

る。」と述べている。子どもはテレビを通して想像力を養うことで、子どもの内にある世界を想像することができると思う。

テレビが与える良い影響には、子どもの発達、親子の会話、子どもの想像力があるといえる。テレビの影響には悪い影響ばかりが目についてしまうが、良い影響もあるということが分かった。

《2. 2》メディアの悪い影響

最近の子ども達はテレビ漬けの生活になっている。帰宅すると、まずテレビをつけ、テレビの前でじっと座っている。この光景が一日に何回も繰り返され、テレビが一日中ついている家庭も多い。九州医療センターの小児科医長の佐藤和夫医師によると、「長時間テレビやテレビゲームをすることが運動不足を助長して肥満の原因になる。テレビ等を見る時間が1時間増加すると肥満の頻度が約2%増加する。」と述べている。現に、最近はテレビやテレビゲームをしていて、肥満になっている子どもが増えてきている。これは、医学の面からもテレビは子どもたちに対して悪い影響を与えているといえる。肥満が進むと動けなくなることや、重い病気にかかることが心配される。今も昔も子ども達は自分のことを顧みず、ただ自分の欲求のままに行動していると思う。もっと肥満について大人が真剣に考え、子どもに伝えていかねばならない。テレビやテレビゲームを長時間しすぎると子どもの身体への影響に深く関わってくる。

また、佐藤医師は「外遊びやおもちゃでの遊びなどの直接体験が減る。」と述べている。確かにテレビやテレビゲームばかりをしていると、家にこもりきり、外で遊ぶ子どもやおもちゃで遊ぶ子どもが減ってしまっている。また、テレビゲームなどは、現実の世界とはかけ離れており、空想と現実が入り乱れてしまっている。直接体験が減ってしまっている子どもたちは家にこもりがちになり、次第に対人関係が上手くとれなくなるという心配がある。対人関係が上手くとれない子どもたちはまたテレビゲームに没頭し、ますます現実の世界とはかけ離れていくと考えられる。次世代を担う子どもたちが外遊びなどの直接経験をしなくなると、それ以降の子ども達はほとんど外遊びをしなくなってしまうとも考えられる。外遊びをしなくなった子ども達は映像メディア漬けになり、世の中はメディアなしではいられなくなると考える。そのような子どもたちに対して、大人たちが立ち上がり、今の映像メディア漬けの生活から少しでも減らしていけるよう、次の世代に向けて伝えていかなければならない。

佐藤医師は「テレビの長時間視聴と学業成績の低下の関連性もある。また、注意欠陥多動性障害との関連も疑われている。」とも述べており、子どもの学力低下について指摘している。最近は子どもの学力低下がテレビからだけではなく、勉強不足によるものだとも言われている。学力低下の問題はいまや、日本中に広まっている。保護者や周りの大人がもう少し子どものことを考えて、テレビの視聴時間を少なくし、勉強が出来る環境を作ることが必要になる。一人ひとりが自覚を持ち学力を低下させないような努力が必要である。

私たちはテレビの悪い影響を知り、行わないように注意を払い、テレビの良い影響を伸ばしていけるようにしなければならない。

《2. 3》対応策

第2章《2. 1, 2. 2》でメディアによる良い影響と悪い影響を述べたが、悪い影響についての対応策を述べておきたい。

～子育てサポート情報誌～すくすくによると、「一緒にテレビを見ながら身体を動かし、子どもの質問に答えながら見ることは、子どもとのコミュニケーションを広げる機会になる。」と述べられている。保護者と子どもと一緒にテレビを見ることは親子の会話にもつながり、コミュニケーションをとる上でも重要になる。子どもばかりにテレビを見せるのではなく保護者も一緒に見る必要がある。そうすると、親子の会話も増え、信頼関係も出てくる。テレビに子守をさせるのではなく、保護者が子どもと接する機会を増やせば自然にテレビを見る時間が減り、子どもにも保護者にも良いとされる。また、ただテレビを見るだけでなく一緒に体を動かすこともしていくといいと考える。コミュニケーションの取り方は各家庭それぞれだが、一例として身体によるコミュニケーションもある。保護者も子どもと触れ合える機会を自分から作り、触れ合いながら成長させていくことが大切だと考える。「テレビ・ビデオはつけっぱなしにせず時間を決める。」とも述べられており、テレビ・ビデオは親がきちんと監督をして時間を決めて見るのが大切である。よって、だらだらと長時間テレビを見ることは子どもの発達にも悪影響を及ぼす。時間を決めて見ることはルールを作ることにもなり、ルールを作ることによって子どもが規則正しくテレビを見るようになると思う。子どもに病気や異変が表れてからでは遅い。そうならないためにも、テレビの時間を決めてルールを作り、親子で一緒に見ていくことが重要と考える。最初に見たいテレビ番組のみを親子で一緒に選び、見たいところだけを見るようにするという方法も有効だ。選ぶ際に重要なことは、子どもが見たいといったテレビ番組を保護者が初めに見ておき、保護者が良いと知ってから子どもに見せることである。保護者が知らずに、見てからいけなかったでは遅いのである。子どもに良い番組を見せるなら保護者がしっかりと把握し、選んで番組を見せていくべきである。

テレビを見る上での対策として、視聴時間の制限や親子で一緒に見るということが挙げられた。保護者はこれらを自覚し、子どもに見せるテレビを子どもと一緒に考えていくべきである。保護者の考え次第で、子どもがどう成長するかが決まる。子どもよりも保護者や大人が気をつけてあげるべきである。

《2. 4》テレビ番組を選ぶときの注意点

次に乳幼児のテレビ番組を選ぶときの注意点について述べておく。

参考文献（ベネッセ次世代育成研究所）にはこう書かれている。

乳幼児のテレビ番組を選ぶとき

- ・子どもに見せていい内容かどうか事前にチェックする。
- ・子どもが見ていい番組を、親が選んであげることが大切。
- ・夜9時以降は、子どもに配慮した放送局の番組規制がなくなり、大人を意識した番組が中心となるので番組を選ぶのに慎重さが求められる。
- ・親子で一緒に見ながら、その番組について保護者がどのように感じているかを伝えることも必要。

この注意点から、乳幼児のテレビ番組は保護者が決めておく必要がある。テレビ番組は子どもの情緒の発達によくないものや、教育上によくないシーン（殺人・暴力シーンなど）が出てくることが多い。保護者が子どものために気をつけてあげることが大切である。保護者が見て、番組を判断し、悪いと思われるものは子どもに見せないような習慣をつけなければならない。乳幼児の場合には、自分で見てもいい番組なのかということが判断できないので、子ども一人で見せるのではなく、保護者と一緒にテレビを見ることを心がけるべきである。子どもは、乳幼児期に心身や情緒が発達するといわれている。その発達を私たちが阻害してはならない。子どもがよりよい成長をしていくためにも、テレビの視聴は保護者が決め、極力一緒に見ることが大切である。そして、保護者が決めた番組と一緒に見ることで、子どもと保護者とのコミュニケーションを育てることができる。コミュニケーションは子どもの心身の発達にも影響するとともに、親子の信頼関係を築くことにも良いと考える。乳幼児のころは、夜9時以降になったらテレビを消し保護者の膝にのせてスキンシップをはかるのもよいとされる。親子のスキンシップは乳幼児期にとってとてもかかせないもののひとつである。親子の信頼関係も築くことができる。また、その番組を保護者がどのように感じているのか子どもに伝えることも大切である。保護者が感じたことを子どもに伝えたほうがその番組に対して思っていることが分かる。保護者が感じたことを子どもに言うことによって、親子の会話が増えコミュニケーションへとつながる。テレビは決して正しい情報を流しているわけではない。テレビからの情報の中にも正しい情報と偽りの情報が入り乱れている。保護者達は、正しい情報を選ぶ意味でも子どもが見て良い番組を選ぶ必要があると考える。

第3章

まとめ

近年各メディアによる情報の普及率が高まっており、パソコンも各家庭に一台置かれている状況である。今日、子どもたちがどのように各メディアに触れ、どのように情報を取り入れているかを知り、子どもたちにどのような影響があるのかを知りたいと思い研究した。

第1章より、保護者は家事などで手が離せないときの子守のためにテレビやビデオを子どもにみせ、また、言葉や知識を豊富にするために見せていることがわかる。また、テレビの視聴時間が二時間以上と長いことやビデオを選ぶ基準が子どもの好きなキャラクターであるなど各家庭での状況がわかった。

以上のことから、家事などで手が離せない時、自分が子どもの相手をするのができないことからテレビやビデオを見せているといえる。いろいろなことを吸収してしまう時期に手が離せないからという理由だけで子どもを野放しにしてテレビやビデオを見せることは、子どもの発達上問題である。各家庭を知ることで、視聴時間の長い家庭が多いことは子どもへの心身の影響や学力低下にもつながるといえる。

第2章でわかるように、良い影響では、表現を豊かにするきっかけになり、また、なかなか身近に感じることをできない自然などを感じることができる。逆に悪い影響では、親子で触れ合う時間が減ることやテレビの長時間視聴による学力低下や運動不足による肥満になることがわかる。

以上のことから、テレビによる良い影響、悪い影響は子どもの心身へ少なからず影響がある。幼児期は影響を受けやすい時期であるため、テレビによって幼児期の発達に何らかの悪影響が出てはいけない。無策にテレビを見ることがないように保護者は注意をし、見たテレビについて子どもと振り返り、テレビをきっかけにコミュニケーションを作るなどの対応策を家庭で考え決めることが大切である。また、テレビ番組を選ぶ際の注意点は、アニメなどの子ども向けの番組もさまざまな内容のものがあるので、子どもが見て良い番組を選ぶ、殴るシーンなどが出てくる番組など子どもに悪影響を与えそうな番組をチェックしておき、一緒に見ながら、こういうことはしてはいけないなどと説明してあげることが肝心である。保護者の判断が基本になるのでルールなどを決めることが必要になり、子どもにとって判断をする力をつけるのに大切なこととなる。また、子どもと保護者とがコミュニケーションを取り合って楽しくテレビを見ることで子どもの心身への影響はよりよいものになる。

今回はテレビを中心とした文献調査や影響・対応策を述べたが、メディアというものはテレビに限らずまだ他にもたくさんある。そのメディアをどう使っていかは私たち人間にかかっている。進化する多様なメディアの中で、私たちは子どもを保育し、教育しようとする立場にある。現場でも多様なメディアを使うことはたくさんあるので、子どもに正しい情報を提供すると共に、正しいメディアとの接し方についての知識を身につけておく

必要がある。

そして、私たちはテレビが与える悪い影響、運動不足、睡眠不足、視力低下についてよく考え、子どもの保育に活かしていきたい。

<参考文献>

九州医療センター 小児科医長 佐藤和夫氏

2歳までのテレビ・ビデオ視聴は控えましょう。～子どもをメディア漬けにさせない

http://konet.munakata.com/hensyubu/toku0405_03.html

～子育てサポート情報誌～すくすく

<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/hokensyo/zoushin/medea.html>

小さな子どもとメディア Benesse次世代育成研究所

まわりはどうしてる？アンケート集

<http://benesse.jp/berd/media/enquete/enquete01/index.shtml>

小さな子どもとメディア Benesse次世代育成研究所

考えるヒントがいっぱい！Q&A

<http://www.benesse-jisedaiken.co.jp/media/qa/index.shtml>